JUNO　埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会ニュース　第146号
2018年（平成30年）11月10日　埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会　発行　☆さいたま市大宮区高鼻町4－219

太平記絵巻の保存と修理

埼玉県立歴史と民俗の博物館　展示担当　主任学芸員　池田伸子

「太平記絵巻」は、全12巻から成る絵巻で、当館はそのうち巻第一、二、六、七、十の計５巻を所蔵し、これらは県指定文化財となっています。当館の収蔵品を代表する作品の一つで、これまで展示などでたびたび紹介してきました。太平記絵巻が当館に収蔵されたのは巻第一が昭和４７年、巻第七が平成７年、巻第二が平成８年で、これら３巻の修理は平成９年までに終えていました。しかし残る２巻は当館に収蔵されたのがその後だったため、未修理のまま今日に至っていました。そこで、昨年度から今年度にかけてこの２巻の修理事業を実施することになり、昨年度に巻第十、今年度は巻第六の解体修理を行っています。

太平記絵巻は、横幅約92センチの紙を継ぎ、1巻分の長さは11メートルから15メートルほどにもなります。解体修理とは、紙や表装の継ぎ目をはずして１紙ごとの状態に戻してから、傷んだ箇所に必要な処置を施し、改めて継ぎ直して表装し直すものです。

永く伝わってきた文化財に手を加える修理は安易にできるものではありません。よく人間の手術に例えられますが、修理自体が作品そのものにストレスを与えることもありますし、修理のやり方が適切でなければ、後々よくない影響を与えてしまう可能性もあるのです。

当館に収蔵された時の太平記絵巻の状態はいずれも、表紙裂や紐の摩耗、本紙（絵が描いてある紙）と裏打紙（本紙の裏に貼る補強の紙）の剥離、絵具の剥がれ、無数の折れ線などがあり、いずれ亀裂などの大きな破損を招く恐れがありました。

平成９年までに行った修理も今回の修理も、主な目的はこれ以上の劣化を防ぐ（劣化の進行をできるだけ遅くする）ことと、取り扱いを安全に行えるように必要な処置をすることでした。修理というと画面を制作当初のようにきれいにするイメージがあるかもしれませんが、画面に何かを描き加えることは作品そのものを変えてしまうことにもなるので極力行いません。絵具が落ちた箇所に補彩はせず、これ以上の絵具の剥落を止める処置をするのみです。また、汚れは画面に影響を与えない程度に除去しますが、取り切れない汚れはそのまま残します。本紙以外の表紙裂、紐、裏打紙、軸木などは痛んでいるため再使用せず、新調することになりました。また、これまで細い軸木に紙を巻いていたために強い巻きぐせがつき、画面の折れが出る原因となっていたため、太巻きと呼ばれる木製軸カバーをつけ、できるだけ巻きぐせをつけない工夫もしています。こうした修理には、長く培われてきた安全な方法である、伝統的な日本の絵画の修理技術や材料を用います。

どんなに大切にしても扱いや経年による劣化を完全に防ぐことはできません。適度なタイミングで適切な修理をすることは、文化財を伝えてゆくために必要不可欠なことで、百年先までを考える責任が伴っています。

次回の友の会理事サポーター会議：12月11日（火）13時より講座室

今後のイベントスケジュール　＊申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。
ホームページ:http://junosaitama.net/　ブログ:http://hakutomobulog.at.webry.info/

○11月17日（土）　講演会　「古代日本の超技術」　＜前号で紹介＞
○12月 1日（土）　古道探索倶楽部「第26回鎌倉街道を訪ねて 羽根倉道番外編その２」　**＜今号で紹介＞**
○12月 7日（金）　お祭り研究会「鷲宮催馬楽神楽見学及び久喜市立郷土資料館」　**＜今号で紹介＞**
○12月 9日（日）　見学会　「野田の庚申塔と関宿城」　**＜今号で紹介＞**

〜〜

かみつけの里古墳祭りと観音塚古墳を訪ねる

2018（平成 30）年 10 月 21 日に見学会　33 名が参加

文句のつけようがない好天に恵まれ楽しい一日を過ごしてきました。クライマックスは、保渡田古墳群八幡塚古墳での『榛名の神（イカホの神）への祈り』シーンでした。いつもの場所から定刻 8 時にスタート、参加者 33 名が期待と不安？を抱えながら高崎に向かう。時期・曜日そして天候。高速道路は混んで当たり前の環境。車中では本日の見学先の古墳・祭りの説明を行う。最初の訪問先、観音塚古墳に 11 時頃到着。見学時間が余りなく資料館並びに巨大石室を急いで見学する。

観音塚古墳は復元全長 105m（現状 95m)、6 世紀末ごろ築造で、群馬県域では最後の前方後円墳と考えられている。この古墳の注目は、石室を構築する自然石の巨大さで、最大重量 55 トンにも達し、見るものを圧倒する。「群馬の石舞台」と称されている。構造的にも奈良県の石舞台と類似している。1945 年(昭和 20 年）3 月、後円部に共用の防空壕を掘っていた際に発見され、盗掘もされず豪奢な副葬品が出土された。30 種類 300 点にのぼり、古墳時代当時の文化・技術の最高水準を示していた。(古墳は 1948 年国指定、出土品は 1961 年に国重要文化財指定)。

12 時頃、かみつけの里博物館に到着、急いで昼食を摂り、資料館見学並びに二子山古墳の頂上へ。コスモス畑や周辺の山並みの眺望見学（榛名山・赤城山・妙義山の上毛三山）と慌ただしい。
13 時から二山古墳の後円墳部で『古墳祭りの再現劇「王の儀式」が始まる。今から約 1500 年前の古墳時代 5 世紀後半、榛名山東南麓一帯は有力な王によって開発され、治められていた。王の館『三ツ寺Ｉ遺跡』の発掘調査では、当時の王の力を示す建物や品物が多く発見。また、王が埋葬された墓「保渡田八幡古墳」には 50 数店もの人物や動物の埴輪が何らかのシーンを表した状態で並べられていた。これらの豊富な考古資料を読み解いた研究成果をベースにして創作されています。王の館でのマツリ（祭儀をイメージした演劇）の始まりです。(略)

祭り終了後は、八幡塚古墳の舟形石棺見学、また、噴頂部からの山並み等眺望を楽しむ。最後に保渡田古墳群薬師塚古墳を見学する。薬師塚は築造中に、6 世紀初頭の榛名山二ツ岳噴火した影響を受ける。依って、規模は縮小か？（略)

後円部にはコンクリートで覆われた舟形石棺を身近で観察できる。予定を終了し、3 時 30 分に土屋文明記念文学館の駐車場を出発、関越は事故渋滞が発生しており、北関東道路から東北道岩槻を経て、大宮西口に無事 6 時 30 分に到着する。百聞は一見に如かずといいます。驚きあり・感動もあった一日お疲れ様でした。(元木孝　記・ブログもご覧ください)

「友の会」のテルテル坊主

友の会のＴ理事とＫ理事は見学会の前に必ずテルテル坊主を軒先につるして晴天を祈願していただいているとのこと。「かみつけの里古墳祭り見学会」を控え今回も作っていただき、好天に恵まれました。ブログで写真をご覧ください。

クラブ活動　（活動報告と募集案内）

松戸市立博物館と「21 世紀の森と広場」

まち歩き研究会　10 月５日に開催　松戸の友の会に感謝

今回のまち歩き研究会は、埼玉県を離れて千葉県松戸市。午前 10 時、小雨模様の中、19 名の参加者がＪＲ武蔵野線八柱駅に集合し、歩いて 15 分ほどの松戸市立博物館と「21 世紀の森と広場」に向かいました。博物館に到着すると、思いがけないことに松戸市立博物館友の会の高田多規夫副会長が出迎えてくれました。下見の時に、この日の見学を伝えていたためのようです。高田多規夫副会長から今回の特別展・常設展の招待券をいただき、無料で見学することができました。ありがとうございます。

来館の目的には松戸市立博物館開館 25 周年記念として開催された特別展「ガンダーラ仏教文化の姿と形」を見学することもあり、興味深く見学しました（略）。

通常展示では、旧石器・縄文時代から戦国時代の高城胤吉一族の活躍などを経て、昭和 30 年代の公団住宅誕生までの「松戸市を通した日本の歴史」を常設展示しています。面白いのは常盤平団地２ＤＫの原寸大・再現展示で、日用品や雑誌、テレビ画面に映るＣＭも当時のものを使用している凝りよう。隣接する公園「21 世紀の森と広場は、北総台地と江戸川低地の境にあり、谷津（湿地帯）や森林といった、昔からある自然を生かした自然尊重型の「都市公園」を理念としてつくられています。かなり広大な公園で、松戸市が管理しているのが驚きです。市立博物館の他に森のホール 21 なども公園内に隣接していて、自然林と千駄堀池などの野鳥を観察できる自然観察舎、散策路も整備されています。ときおり、小雨が降るという天気でしたが、参加者一同は管理棟内で食事をし、植物園や池に沿った自然歩道などを自由に歩き、広い園内の景観を楽しみました。

（筑井　記・ブログもご覧ください）

◆鷲宮催馬楽神楽見学及び久喜市立郷土資料館◆

12 月 7 日（金）　「日本の祭り研究クラブ」第 29 回見学会のお知らせ（参加自由）

≪日時≫2018 年（平成 30 年）12 月 7 日（金）　10 時 00 分～15 時 00 分：雨天決行
≪集合≫東武伊勢崎線「鷲宮駅」改札出口　午前 10 時
≪費用≫交通費（電車等）、保険代他 100 円
≪持物等≫歩き易い靴並びに飲物・昼食・カメラ・傘等（季節柄暖かい服装も！）
≪内容≫久喜市は埼玉県の東北部に位置し長い歴史と豊かな文化を継承しています。人々の足跡が確認できる遺跡・古墳なども多く、鎌倉時代以降、鷲宮神社が幕府などから崇敬を集め、戦国時代には古河公方足利氏の勢力下に、関連資料も多く残され、江戸時代には日光道中の宿場として栗橋宿が栄え多彩な歴史を歩み、また、神楽や獅子舞、山車行事も盛んに行われ、伝統文化が息づいた街。今回は、神楽で第一号「国指定重要無形民俗文化財」となった『土師一流催馬楽神楽』の見学と生き続ける久喜の歴史と神楽の世界を学びに郷土資料館を訪れます。神楽奉納時間は 11 時頃～15 時頃予定で。見学は 13 時からの予定。
≪申込み≫下記の連絡先までお願い致します。
≪連絡先≫元木孝　TEL：0493-54-0401　（携帯 090-2259-1673）　E メール（qqqt9x8a9@cyber.ocn.ne.jp）

◆第 26 回鎌倉街道を訪ねて　羽根倉道番外編その２◆

12 月１日（土）「古道探索倶楽部」のお知らせ

≪日時≫2018年（平成30年）12月1日（土）　9時30分～15時30分（予定）
≪集合≫　埼京線　武蔵浦和駅改札口周辺　9:30
≪コース≫埼京線武蔵浦和駅⇒沼影観音堂⇒無量時⇒一乗院⇒普門寺⇒妙厳寺⇒平等寺⇒妙顕寺
⇒観音寺⇒戸田市立郷土博物館⇒埼京線戸田駅
≪参加費≫資料代等300円
≪その他≫途中にコンビニが少ないので、お弁当と飲物は必ず事前に御用意願います。
≪問合せ先≫前日まで犬走（いぬばしり）　048－756－5634　当日　小俣（おまた）　090-3436－9017
≪参加申込み≫11月27日（火）までに、普通ハガキに氏名・住所・会員番号・電話番号（ご自宅・携帯とも）を明記して　〒339-0058さいたま市岩槻区本丸３－８－１７　犬走東道あて

野田の庚申塔と関宿城

3.5mの高さを誇る猿田彦像（須賀神社）

「埼玉県南東部から千葉県東葛北部にかけては、日本でも最も庚申塔が密集している地域である。なかでも野田・流山の地は醤油の醸造をもって知られており、それを通じて江戸との交流も盛んで、この地帯には卓越な庚申塔が見受けられ、さながら庚申塔の展示場の観を呈している」（大護八郎・元埼玉県立博物館館長）この庚申塔巡りと、利根・渡良瀬・常陸三川合流の政治的・軍事的要衝の地、関宿を見学します。

日　時：１２月９日（日）午前８時
集　合：大宮駅西口ソニックビル西側
参加費：６，５００円（昼食代・寺社お礼含む）
コース：大宮駅西口……福田第一小学校横・庚申塔群……愛宕神社・三猿の競艶……須賀神社・猿田彦像……昼食・紫乃……野田市民会館・郷土資料館……関宿・宗英寺……関宿城博物館……大宮駅西口
申込み：往復ハガキに見学会名・住所・氏名・会員番号・電話番号（携帯）・年齢（関宿城博物館は６５歳以上入館無料、名簿提出が必要）を明記の上、〒337-0042 さいたま市見沼区南中野 1183-10 斉藤文孝 宛へ
定　員：33 名（定員に成り次第締め切らせていただきます）
その他：ご家族・友人は同伴できます。座席希望があれば明記ください。

埼玉県立歴史と民俗の博物館・友の会